

平成30年度 学校評価 評価書

日之影町立宮水小学校

4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

評価項目	達成目標と方策	自己評価				学校の自己評価所見	第三者評価
		児童	保護者	教師	全体		
学力の向上	学習の基盤となる学習態度等の指導を日常的に徹底し、基本的な学習習慣の定着を図る。	3.3	2.8	3.1	3.1	○学習にまじめに取り組む姿が見られる。学習意欲を高めるために、授業を振り返る段階を充実させることに課題ができた。学習意欲を高めることで学習習慣を定着させ、家庭学習習慣の定着にもつながるよう家庭と連携を図りながら取り組む必要がある。	3
	思考力の育成を図った授業改善に取り組み、教師の授業力を高め、学力の向上を図る。	3.3	3.3	3.1	3.2	○今年度は、主題研究において、友だちや教師との対話的な学びをとおして思考力の育成を図ってきた。児童の自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞く意欲の高まりが見られる。判断力や表現力も含めながら今後も高めていく必要がある。	3
	全職員による指導体制でパワーアップタイムを充実させ、基礎的・基本的な事項の習得と思考力の向上を図る。	3.8	3.1	2.9	3.3	○二人体制のパワーアップタイムを実施したことにより取組の充実が見られた。町特別支援教育支援員と連携した指導や年間をとおして行った個別指導の充実により、基礎的・基本的な学力の向上が見られる。	3
	各種テスト（全国・県学力調査、期末テスト等）を活用した指導を充実させ、学力の向上を図る。	／	3.2	2.8	3	○全国・みやざき学力学習状況調査の結果を分析し、児童一人一人の実態を把握することができた。一人一人の実態把握をもとにした指導の工夫改善についての取組は十分とはいえない。	3
豊かな心の育成	時と場に応じたあいさつや会釈を身に付けさせるために一層の指導の充実を図る。	3.7	3.1	3.2	3.3	○運営委員会によるあいさつ運動、生徒指導部を中心としたあいさつ指導により、元気なあいさつができる児童が増えている。地域や家庭でのあいさつに課題が残るため家庭と連携した指導を工夫していく必要がある。	3
	学級経営の充実や教育相談の実施を通して、望ましい人間関係の醸成を図る。	3.8	3.3	3.4	3.5	○教育相談、アンケートを毎月実施し、児童の悩み等の早期発見・解決に努めることができた。いじめ事例が起った場合は、早期に対応してきた。継続的な事例は発生していない。今後も、引き続き見守っていく。	3
	児童会活動や学校行事を通して主体的に活動できる力を育成する。	3.8	／	3.1	3.5	○各委員会を中心に遠足、プール開き、運動会、学習発表会等児童の主体的な活動を取り入れることができた。行事に限らず、昼休みに児童が企画した全校遊びの取組もあり、主体性が育ってきている。	3
	全職員の共通理解・共通実践を行い、学級での日常指導を充実させ、基本的な生活習慣の確立を図る。	／	／	3.1	3.1	○はぐくみ委員会や職員朝会等を活用して、児童の生活に関わる気になることの共通理解を図ることができた。今後は、さらに重点化を図り、具体的な項目について取り組むことで効果を高める。	3
たくましい心身の育成	体力テストの結果をもとに、個に応じた到達目標を設定し、体育科授業や体育タイムを充実させ、体力の向上を図る。	／	／	2.2	2.2	○体力テストの結果をもとに体力向上プランを作成することができた。また、個に応じた到達目標も設定することができた。取組が不十分であったため、今後は、プランにある取組を継続して行う必要がある。	2
	体力向上プランを基盤として、ラジオ体操やなわとび運動、外遊びを推進し、運動の日常化と継続化を図る。	3.6	3.2	3	3.3	○季節等の時期に合わせてラジオ体操の指導、持久走、縄跳び運動等を計画的に行うことができた。今後は、日常化につながるよう内容の充実を図る必要がある。	3
	養護教諭や栄養教諭と連携した日常指導等を行い、健康的な生活習慣や望ましい食習慣を育成する。	3.4	3.2	3.5	3.4	○児童の生活習慣アンケートをもとに個別指導を行ってきたため、早寝早起き・朝ごはんの取組は、約9割の家庭できている。今後も継続した取組を続け、さらに高めていく。	3
	日常的に立腰指導を行い、正しい姿勢の習慣化を図る。	2.9	2.5	2.4	2.6	○連携した授業は、養護教諭13回、栄養教諭4回行うことができた。児童は、立腰等のよい姿勢への意識が不十分であるため、定着を目指した日常指導の充実を図る必要がある。	3
家庭・地域との連携	家庭と連携を図りながら、基本的な学習習慣や学習内容の定着を図るとともに読書活動を推進する。	3.4	2.4	2.5	2.8	○学級通信、参観日の懇談会等を活用して「家庭学習の手引」について啓発を図ったが不十分であった。家庭でも実践が図れる工夫が必要である。家庭での読書についても啓発が不十分であったため、重点的に取り組んでいく。	3
	家庭・地域と連携し、体験活動や交流活動を充実させ、思いやりのある豊かな心を育成する。	3.3	3.2	3	3.2	○社会科、総合的な学習の時間等において役場、日之影の特産品生産者等の方々と連携し体験活動等に取り組むことができた。地域の人材マップ等を作成し、さらにスムーズに連携が図れる体制づくりを進める。	3
	家庭と連携を図りながら、健康的な生活習慣や望ましい食習慣を育成する。	／	／	3.1	3.1	○早寝早起き・朝ごはんやアウトメディアのアンケート結果をもとに個別指導が必要な児童には家庭に連絡を取り実施できた。確実な定着を目指し、連携を図った指導を繰り返し行っていく。	3